

## 利 用 報 告 書

課 題 名	奈良大学第二外国語履修生に対するアンケート調査
	Research for the students of the Second Foreign Language
利 用 者 名	田中 良 (教養部・講師)
<p>1. 研究目的・内容</p> <p>近年、大学は改革の波に晒されている。とりわけ問題視されるのは教養部であり、中でも第二外国語の現状と今後のあり方である。その結果、すでに改革を終えた大学、現在進行中の大学等様々であるが、この度本学の第二外国語においても遅らばせながら改革に取り組む運びとなった。本研究の目的は、その第一段階として、第二外国語に対する学生の意識を調査することである。</p> <p>アンケートは、履修の「動機」、「情報源」、英語との補完性、学習の意義、現状、今後のあり方等を含む20問から構成されている。</p> <p>2. 研究方法・計算方法</p> <p>アンケート作成に当たっては、同志社大学による同種の「報告書」(1991年6月)をもとに、本学の第二外国語担当教員、堤 (ドイツ語)、田中 (フランス語)、笠置 (中国語) が協議し、本学の学生に適した形に編集、作成したものである。調査は、1991年秋、第二外国語履修生1396名を対象に実施された。集計処理には、統計処理用ソフト“SPSS-X”を使用した。</p> <p>3. 研究成果</p> <p>その結果、学生達の第二外国語に対する意識がかなり明確になった。すなわち学生達がどのような動機でその外国語を履修したのか、外国人教師を希望するか？現在の授業時間数、クラス人数についてどう思うか、希望する教材は？現在の履修制度及び将来の履修制度についてどう思うか、等様々な設問を通して、学生たちが現在の第二外国語をいかに考え、将来いかにあるべきかと願っているかが浮き彫りにされた。このデータは、今後の改革に向けての貴重な資料となろう。</p> <p>4. 発表・出版実績</p> <p>堤博美、田中良、笠置侃一：「奈良大学第二外国語履修性に対するアンケート調査」、奈良大学紀要、21号、平成5年3月</p>	